



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	後期開発および初期生産用合成原薬製造棟新築工事 54号棟	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★
------	------------------------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1 / 5		ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 / 5		ふつう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0 / 5		ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0 / 5		ふつう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上 ふつう 3点以上 がんばろう 3点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	3.1
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④床ビニル床シート20年、壁:EP-G塗装15年、天井:EP塗装15年 ④給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用 ④通信手段の多様化、無停電電源装置の設置など 	Q-1 2 2.1 2.12 ① Q-1 3 3.1 3.13 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
<ul style="list-style-type: none"> ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
<ul style="list-style-type: none"> ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫内装が乾式工法で分別性に配慮、OAフロア採用 ⑬発泡断熱材はノンフロン製品を採用 ⑬ODP=0、GWP=0の冷媒を採用 	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)	得点	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯免震構造を採用 ⑰耐震クラス ⑰通信手段の多様化、無停電電源装置の設置など 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)	得点	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲平均階高3.9m以上 ⑲0.1≤[壁長さ比率]<0.3 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)	得点	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) 	Q-3 1 2 3 3.2	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善) 	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 温熱環境悪化の改善

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	後期開発および初期生産用合成皮革製造棟新築工事 54号棟	階数	地上5F
建設地	静岡県藤枝市高柳2500-1、2729-2	構造	S造
用途地域	工業専用地域、工業地域、防火地域指定	平均居住人員	60人
地域区分	7地域	年間使用時間	5,280時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2022年2月22日
敷地面積	6,912㎡	作成者	日揮株式会社
建築面積	2,205㎡	確認日	2022年2月22日
延床面積	10,488㎡	確認者	日揮株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境	温熱環境	光・視環境	空気質環境
N.A.	N.A.	N.A.	N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

機能性	耐用性	対応性
N.A.	3.2	4.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境	まちなみ	地域性・
1.0	3.0	2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.5

建物外皮の熱負荷	自然エネルギー	設備システ	効率的
N.A.	3.0	2.2	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

水資源	非再生材料の使用削減	汚染物質回避
2.2	3.4	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

地球温暖化への配慮	地域環境への配慮	周辺環境への配慮
3.0	2.4	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。環境配慮として、脱フロンおよび二酸化炭素排出量低減に代表される環境安全と省エネルギー設備構築を目的に、自然エネルギーの採用や溶媒改修等を積極的に実施する設備とすることを設計コンセプトとしている。		その他
Q1 室内環境 -	Q2 サービス性能 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	Q3 室外環境(敷地内) 屋外照明の設置など防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル OAフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい